

## 医師確保計画骨子案に対するこれまでの意見

<令和元年8月7日 第1回石川県地域医療対策協議会>

項目	意見
医師偏在指標	・医師偏在指標については、大学勤務医も一般の医師と同等に扱われているように、必ずしも万能なものではないので、指標に振り回されないようにする必要がある。
医師偏在指標	・石川県が県外も含めた地域の医師確保に貢献していることを他県にも正しく理解してもらえるように表現していく必要がある。
医師確保の方針	・医師多数区域でも医師少数区域でもない南加賀地域、能登中部地域についても、医師確保の方針を明確に記載すべき。

<令和元年10月28日 石川県医療計画推進委員会 小児・周産期医療対策部会>

項目	意見
施策	・県内で研鑽を積んだ専門医を、いかに県内に根付かせるか。そのためには、将来の指導者の育成、医師が研修や研究にも取り組める態勢の確保が必要であり、県立中央病院でそういった体制を整備すべき。
施策	・富山県、福井県の産婦人科は、県立病院と地域の病院で相当の研修が行われ、地域定着につながっている。石川県で実際にお産をしっかり教えられるのは県立中央病院しかない。一方で緊急手術にも対応できるキャリアを積んだ医師でないと、医師不足地域に従事することは難しい。こうした状況に危機感を持たないと、石川県だけが取り残される。
施策	・県の委託を受けて医師会で実施している新生児蘇生法の研修会について、記載すべき。
施策	・周産期医療センターにおいては、普通分娩はできるだけ助産師に委ね、医師はハイリスクに専念すべき。そのため、所属する助産師に対して、助産師出向研修の積極的な受講を薦めるべき。